

「重富小学校の史跡めぐりの取組」

1 学校名

始良市立重富小学校

2 学年・人数

5年生（計103人）

3 日時・場所

(1) 学習会等の日時・場所

令和5年11月11日（土） 史跡めぐり：総合的な学習の時間

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

(1) 名称・時代

ア 平松城跡（ひらまつじょうあと）：中世

イ 岩劔神社（いわつるぎじんじゃ）：不明

ウ 島津家の墓（しまづけのはか）：江戸時代

(2) 特徴

ア 平松城跡

平松城跡は、現在重富小学校敷地となっている。天文23年、蒲生方の岩劔城が落城したのち、島津義弘が在番することになったが、山頂までの道のりが陰しく日常生活には不便であったため山麓に屋形を築いた。これが平松城の始まりである。

イ 岩劔神社

創建ははっきりしないが、天文11年の棟札に、「大檀那平重嗣地頭重清」と記されており、当社はこの年建立されたと推測される。別当寺は天台宗（延享2年までは真言宗）岩劔山神宮寺円明院（延命院）であった。天文23年、大中公（島津貴久公）が渋谷党を岩劔城に攻撃された時、田布施金峯山の座主某が岩劔神社の神体を奉持して、白銀坂の陣営に勧請した。公が、勝利すれば毎年祭祀に神舞を報賽せんと祈願されたところ、その夜半渋谷の兵は岩劔城を遁れ去った。翌日、公は城に入り、岩劔の本社へ神体を遷された。このため、公は当社を軍神と称し尊崇されたという言い伝えがある。

ウ 島津家の墓

越前（重富）島津家の墓である。越前（重富）島津家は元文2年、島津氏22代島津継豊の弟忠紀を初代とし、断絶した越前島津家を復興するという形で始まった。墓所は始良市の紹隆寺跡にある。同墓所には16代から19代および21代から24代の墓がある。（20代の墓は福昌寺にあり）

5 保存会や地域との連携の具体

地域の講師の方から、重富小学校5年生が総合的な学習の時間に「平松城跡」、「岩劔神社」、「島津家の墓」等の校区内の史跡について説明を受けるなどの活動を行っている。

6 活用の取組の工夫した点

地域の講師の方が、「平松城跡」、「岩劔神社」、「島津家の墓」等の各箇所に来てくださり、5年生児童がグループごとに各箇所を歩いて訪ね、実際の場所で説明を受ける学習活動を行っている。

7 取組の様子



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

毎年、重富小校区内にある「平松城跡」、「岩劔神社」、「島津家の墓」等の史跡について、地域の方がガイドとして、子供たちに詳しく説明して下さっている。この学習を通して、子供たちは、歴史と伝統に育まれてきた地域の中で生活していることに気付くとともに、地域の方への感謝、郷土への誇りと愛情を育むよい機会となっている。